

【令和３年度 家庭科授業改善推進プラン】 小平市立上水中学校

家庭科で身に付けさせたい力・目指す生徒像

実践的・体験的な学習活動を通して、家族と家庭の役割、生活に必要な衣、食、住、消費等についての基礎的な理解と技能を養うとともに、それらを活用して課題を解決するために、工夫し創造できる能力と実践的な態度の育成を目指している。

学習状況及び課題

	1 学年	2 学年	3 学年
学習状況	・授業に意欲的に取り組んでいる。 ・裁縫の基礎・基本が定着していない生徒がいる。 ・裁縫の進度に付いて来られない生徒がいる。 ・提出物を期限内に出せない生徒がいる。	・授業に意欲的に取り組んでいる。 ・制作において自ら計画を立て実践していく意欲が感じられる。 ・提出物を期限内に出せない生徒がいる。	・授業にたいへん意欲的に取り組んでいる。 ・小・中学校で学んだ知識や技能を活かした制作のプランを立て、実践することが出来る。 ・アドバイスの良い方向に直していこうという意欲が感じられる。
指導上の課題	・衣服または住まいに関する関心をもち、課題をもって衣生活または住生活について工夫し計画を立て実践できるようにすること。 ・裁縫の基礎・基本を身に付けさせること。	・日常の食生活と指導内容がリンクでき、実生活に反映させられるよう指導を工夫する必要がある。 ・調理など家庭で実践できるような課題を設定する必要がある。	・プライバシーに配慮した上で、自分の成長と家族や家庭生活との関わりについての学習活動に取り組ませる必要がある。 ・課題を家庭で実践できるよう促す必要がある。

改善プラン

	1 学年	2 学年	3 学年
学習面	・提出期限を守る意識を高める。 ・裁縫の基礎・基本の定着を図り、自分の生活に役立つものを作ることができるようにする。	・提出期限を守る意識を高める。 ・家庭で実践する意欲を高める。 ・裁縫の基礎・基本の定着を図りさらに作品にオリジナリティーを加え自分の生活に役立つものを作ることができるようにする。	・3年間の学習を生活の自立と結びつけて考えさせる。 ・生活の中の課題は何か、解決するためにどんなことができるのか具体的に考えられる力を付けるようにする。
指導面	・自分自身の課題と捉え、よりよい生活にするための工夫ができるように、発問を工夫したり、発言を促したりする。 ・裁縫の進度に遅れを取る生徒に個別に声掛け、指導をする。 ・早めに提出期限を提示し、期限を過ぎてしまう心配のある生徒に個別に声を掛ける。	・実習前後の授業で実生活との結びつきを意識させ、出来上がった作品をどう生活に生かすか考えさせる。 ・裁縫の進度に遅れを取る生徒に個別に声掛け、指導をする。 ・早めに提出期限を提示し、期限を過ぎてしまう心配のある生徒に個別に声を掛ける。	・毎回の授業で進度を確認させ計画的に進めるよう指導する。 ・早めに提出期限を提示し、期限を過ぎてしまう心配のある生徒に個別に声を掛ける。

評価

- | | |
|-------------------|-------------------------|
| ① 振り返りシートによる達成度評価 | ② 各学期の定期テストの結果 |
| ③ 実習による技能の習得 | ④ ワークシート等による実生活への発想及び展開 |